旧海軍司令部壕

施設管理者　　：一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
施設所在地　　：沖縄県豊見城市
調査見学時期　　：平成 31 年 1 月 11 日（金）
施設概要

太平洋戦争中、最も熾烈を窮めた沖縄戦で、大日本帝国海軍の司令部として使用された防空壕です。1944 年 8 月 10 日に着工され、海軍第 226 設営隊（山根部隊）約 3,000 名がつるはし等を用いた手掘りで掘削し、同年 12 月に完成しました。壕の断面はかまぼこ型で、コンクリートと枕木で補強して、全長は 450m で、作戦室、幕僚室、暗号室、発電室、宿泊施設等があり、当時は 4,000 名が使っていました。1945 年 1 月 20 日に大田実海軍中将が司令官として赴任し、アメリカ軍からの攻撃に対抗しました。同年 6 月 4 日からアメリカ軍による集中攻撃が始まり、13 日に大田司令官は自決をとげました。戦後、1958 年に沖縄海友会によって海軍慰霊之塔が建立されました。1970 年に壕内の長さ 300m 区域が復元され、一般に公開され、1972 年には周辺の 6.5ha が海軍壕公園として整備されました。

小禄地区の配置図

掘削に使用されたつるはしと工事状況

壕内部

旧海軍司令部壕

施設管理者　　：旧海軍司令部壕事業所
施設所在地　　：沖縄県豊見城市
調査見学時期　　：平成 9 年 12 月 4 日（木）
施設概要

太平洋戦争中、最も熾烈を極めた沖縄戦において日本海軍が沖縄方面根拠地司令部を置いたところで、壕内には司令官室をはじめ各室が当時のままの状態で保存されていました。この壕は将兵が鍬やツルハシで掘ったもので、その全長は約４５０ｍにも及ぶとのことです。地下空間の深層心理も重要なテーマとなっていますが、人一人がやっと通れる通路など、住空間としては決して広いとは言えず、当時の苦しい状況を垣間見たような気がしました。（ＧＥＣニュース第１００号より抜粋）